

(大正六年)

一月一日 円山ニ参拝シ学校ノ拝賀式ニ列ス、午後ハ廻礼ニ遊ビニ舎ハ大抵ノ室ガ空ニテ初春ノ瑞風雲雲トシテ我舎ニ漲ルー同ノ意気旺ナル事旧年ニ幾倍ス。

一月七日 宮本誓晃君退舎セラル、君ハ今般更ラニ円山村小作二戸分ヲ増シ自營農業監督ノ為円山村ニ移ラレタルナリ。食事ナシ。

八日 此頃連日我舎ノ有志数名相携ヘテ円山或ヒハ三角山ヘスキーノ遠征ニ向フ。

此日出発ノ折ハ天気静穏ナリシモ中頃大吹雪ト化シタルモ何レモ元気映勢ニテ帰ラレタリ。左ニソノ人々ノ芳名ヲ記センニ

北村君、岡部君、高橋君、外旧舎生、日野君アリシモ途中ニテ落伍シヌ

本日小野君郷里ヨリ帰舎セリ

皆午後板垣君して六号室より四号室に移りて高藤君と同居し保科君ハ八号室の小松君と同居し青木君ハ七号室より六号室に移れり、依りて六号室は空室となれり。

本日五藤君ヨリ拙者小野ガ文藝部ヲ引継グ。

一月九日 寒気非常ニ強クシテ図書室ハ零度ナリキ。小野君ハ当区北八條ノ親類ニ病人アリシ為右之所ニ外泊セリ

一月十日 天気晴レテ心地ヨシ。小野君前述ノ事情ニヨリテ外泊セリ、十一日モ外泊。

一月十一日 午後五時小野君の親類ニ小児死亡セラレシ事ヲ悔ム、通夜ノ為外泊セラル。

一月十四日 本夜小野君帰舎ス、日曜日トテ岡部君ナド三角山方面ヘ雪艇ヲヤルニ行カレタリ。本日ハ意外ノ暖サナリキ。

一月十六日 夜来ノ降雪本タニ及ブ、積雪四尺、市中半ニ雪ニ埋マル

一月十八日 寒中ノ降雨珍ラシ、ばあやんガ自分ノ家ノ孫ガ病氣ト又遂ニ御永眠ノ為メ約十日間留守ナリシモ本日帰舎ス。

其間豆腐屋ノばあさんヲ頼ミ炊事ノ事ナド任セタルナリ。

一月廿日 (吹雪) 今夜小松君ガ一同ニ餅ヲ振舞フトテ善哉志るこ乃馳走アリ。一同小松君ノ部屋ニ集マリテ快談ニ時ヲ移ス、今日吹雪ノ為メ電燈明滅頻々タリキ。

一月廿日 (晴) 本日大寒入り絶好ノ快晴、学校図書館ニ於テハリス博士及外一名ノ講演アリ、舎生ノ大部分ノ人ハコレヲ聴講セリ。

一月廿一日 (曇後雪) 例ノ如ク小松君高橋君岡部君ノ三人三角山方面ニスキーニ行ク、御熱心ノ程驚キ入ル

一月二十三日 本日夕食後月次会開催ニ関シ委員会アリ。会ハ二十七日ト決定ス、尚当日ノ委員諸彦左ノ如シ。

齊藤君、内山君、植崎君、山司君

一月二十四日 寒気強烈ナリ、本夜月次会委員開催サル

一月二十五日 帝国議会開散さる

一月二十七日 月次会開カル 而シテ討論アリ、南進?北進?を討論題とす。

今夜宮部先生ハ用事ノタメ後欠席サル、石澤様当夜議長トナラレ甲論じ乙反駁野次猛烈

大活況ヲ極ム、右終リト茶菓ノ饗応アリ。一同飲ヲ尽シテ散開セシハ十二時半
本日学校ニ於テハ剣道納会アリキ。

一月二十八日 最終ノ日曜、天気静穏ナリ。時計台ニ於テ擬国会アリタリ

一月二十九日 会計決算ヲ夕食後行フ

一月三十日 新聞雑誌ノ競賣ヲ行フ、ソノ結果

タイムス 十銭 小河原君

讀賣 十三銭 青木君

朝日 二十一銭 北村君

太陽 三十四銭 小野

中央公論 三十銭 内山君

二月二日 山司君岡部君ト共ニ三角山ニ雪艇ヲナセリ

二月三日 節分 舎生一同ハ甘酒、炙豆ノ振舞アリ

寒稽古皆勤者慰労会アリ、本年舎生二十名中皆勤者五名、柔道部小河原君 擊劍部高橋
君、青木君、岡部君、保科君

二月四日 本校対小樽高等商業学校トノ剣道試合アリ、我舎ヨリ高橋節雄君選手トシテ出
場ス。此日乃勝利我校ニ帰ス 又三角山ニ於テスキー大会アリ、当日我舎ヨリ岡部彦庫
君出陣、名譽ノ一等賞ヲ得、日頃乃練習振効ヲ奏セリ

今夜植崎君国ヨリ送ラレタル餅ヲ一同ニ振舞フ

二月五日 寒氣稍々緩ム 天候又快晴也

本夜又ニ板垣君餅ヲ振舞ガ、本年寄宿舍ハ餅乃当年ナリ

米国対独国乃形勢逼迫スト新聞紙上ニ散見ス 米国果シテ立ツ大勇アリヤ。

米独国交断絶ハ事実トナル。

二月十一日 紀元二千五百七十七年ノ紀念日紀元節トナス コノ月ヲトシ卓球大会ヲ催ス
此日天気晴麗温度上昇絶好ノ卓球日和ナリキ。左ニスコーアヲ記シテ当日ノ経過ヲ示ス

紅 白

板垣 齊藤

内山 山司

白河 ◎五藤

○保科 小河原

鈴木 ◎村岡

北村 ◎岡部

青木 亀井

岩田 小松

◎田中 ◎高橋

小野 ◎小西

田中

板垣

右終リテ輪転勝負あり

一等賞 高橋君

二等賞 小松君

三等賞 岩田君

四等賞 小西君

右終リテ菓子乃馳走アリ

二月十三日 植崎君実習地野幌ヨリ帰舎セラル 七日ヨリ本日迄五日間

月次会開催ニ関シテ委員会ヲ開ク、頃日来ノ暖サモ俄然一變吹雪トナル

二月十七日 (土)

二月ノ月次会開催サル、本日ノ委員ハ青木君、五藤君、保科君、板垣君

宮部先生ノ御出席アリ

当日ノ出演者左ノ如シ

一、開会ノ辞 青木君

一、人と金 岩内君

一、不安ノ心 高橋君

一、魚ノ獲方 岡部君

一、床屋ノ髮剃 小松君

一、彼と牛 小野君

一、時間と仕事 亀井君

一、青豌豆連作に就き 宮部先生

先生ニハ問題ノ青豌豆肥料ト蠣崎氏トノ青豌豆肥料ノ危険ノ警告ヨリ説キ亜麻ノ連作不能ノ事実ニ及ビ丁寧ニ我々ニ御説明アラセラレタリ

右終リテ茶菓及余興アリタリ、時ハ二十二時ナリ。

二月十八日 我舎恩人森廣氏ノ三週忌ナリシモ何等ノ試ナキシヲ遺憾トス

学校ニ於テ剣道大会アリキ

二月二十四日 夕食後第七號室ニ於テ追分節温習会及大コンパヲ開ク、會スルモノ十六名、各自喉ノ潤ルハマデ吐鳴リ盛会ヲ極ム。重々小河原君小西君及岡部君尽力ス、午後一時ヨリ學校ニ於テ外国語学会ノ大会アリキト

二月二十五日 本日午後寄宿舎総出ニテ屋根ノ雪ヲトリ除ク、コノ種ノ試ミ大イニ賛成ナリ、又、小松君埼玉県人寄宿舎ニ至リ子狗ヲ貰ヒ来ル

本年ハ近年稀ナル大雪ニテ積雪五尺ニ及ブ 寒氣又緩ムコト遅々タリ。

二月二十六日 夕食後白川君誕生日ニ相當セシヲ以テ一同ニ蜜柑ヲ馳走ス コノ種ノ催シハ賛成ナリ。

二月二十七日 夕食後■二月決算ヲ行フ

二月二十八日 夕食後、新聞雑誌ノ競賣ヲ行フ、價格芳名ヲ記セバ左ノ如シ

北海タイムス	一二銭	齊藤君
讀賣新聞	十五銭	青木君
東京朝日新聞	二三銭	小野君
太 陽	十三銭	亀井君
中央公論	十八銭	田中君

三月二日 小松君保科君ハ本日ヨリ火鉢ヲ閉フ

三月十日 陸軍紀念日トテ北村君ヨリ茶菓ノ馳走アリキ

三月十一日 本日夕食後委員会ヲ開ク、而シテ来ル二十五日月次会ヲ開クコト及學僕鈴木毅君ヘ英語辞書或ハ硯函ヘ贈ルコトトセリ、コハ今回卒業（北海中学校）シ上京遊学ノ為メ去舍旬日ニ迫レルガタメナリ。

尚当日二十五日月次会ノ委員ハ

岩田君、小松君、北村君、小西君

三月十三日 學僕鈴木毅君上京遊学ノ為メ我舍ヲ出デラルハニ當リ、舍生一同聊カ微意ヲ表セントメ、井上氏英和辞典ヲ贈ル。

三月十四日 第二学期試験一兩日ニ迫ル、舍生各自ノ奮励ヲ希庶ス

三月十五日 大吹雪アリ、本日夕食ニ鈴木毅君ノタメ聊カ馳走ヲナシ以テ送別ノ意ヲ表ハス、御可笑カリシハ主催者ノ挨拶モナクマタ被饗者ノ御礼モナキシカ少々物足ラザルノ憾アリキ

三月十六日 第二學期試験愈々本日午前八時半ニハ幕ヲ開カレタリ、青年寄宿舍一同ノ奮闘ヲ飽ク迄モ祈ル。今日モ可成ノ吹雪ナリシ。

三月十七日 本夜九時半休校ニテ愈々鈴木毅君出發上京ス、有志ノ人々ニテ停車場迄見送リス、君ノ前途ヲ萬斛ノ熱誠ヲ以テ送ル、君ヤ幸ニ健在ニシテ速ニ希望ノ到達セラルハ日ノ近キヲ期待セントス、君ヤ我舍ニアルコト四年乃至ハ五年ハ覺ユ、ソノ間吹雪ノ日モアリシナラン、マタつらき日モアリシナラン、學僕トシテ君ヤ先ヅ十分ニソノ務ヲ終リ、遊学セラル、重ネテ君ガ健在ヲ祈リ君ガ成功ヲ祈リテ爾云フ。

三月廿日 彼岸前一日ナレドモ試験中ニテモアレバト云ウ。今日牡丹餅ヲ振舞フ。岩下君副舍スルコトハ相成リ試験済ミ次第正式ニ入舍ス可キ筈。

三月二十一日 春季皇靈祭々日ナリ、コレヨリ日一日ト日長クナルカト思ヘバ嬉シ、今日ハ絶好ノ好日和 風モ凞デ春ノ気分 北乃都ニ漲ル、第四號室（齋藤板垣兩君）本日ヨリ火鉢ヲ取りノク（本日ハ◆入セズ）

三月二十四日 本日ニテ亀井君ヲ除ク外全部試験終了ス。

本日植崎岩下兩君雨龍方面ヘ演習林ヘ修学旅行ス（後手塩方面ト判明ス）

岩下君ノ荷物本日到着ス、一先青木君ノ部屋ニ入ル、第九號室（岡部小野兩君）火鉢ヲ取り端ス

三月二十五日 夜ニ入りテ吹雪トナル

本日豫科二年足立仁君入舍セラル（食事ナシ）、部屋第二號室ニ決定ス

三月二十六日 月次会ヲ開催ス。宮部先生ノ御出席アリ、五分間演説アリ、一同夫々熱辨雄辨能辨ヲ振フ 盛大裏ニ閉会、後茶菓ノ饗應余興アリテ飲ヲ縦ニシテ散開セシハ十二時半ナリキ

尚本日月次会ニ於テ雑誌新聞ノ競賣ヲナス

北海タイムス	十四銭	五藤君
讀賣新聞	十九銭	小河原君
東京朝日新聞	二十八銭	小野君
中央公論	三十一銭	五藤君
太陽	三十一銭	山司君

續イテ各部委員ノ改選ヲナス 當選者左ノ如シ

会計 北村君 食事 高橋君 衛生 村岡君 文藝 白川君 運動 岡部君 園藝 岩田君

三月廿七日 本日ヨリ文藝部委員ヲ小野君ヨリ引継グ、金高二円九十一銭ナリ。

内山君ハ水産ノ某先生ト共ニ、晝十二時ノ列車ニテ、忍路ニ向ケ旅行セラル 蓋シ見学ノタメナル可シ

三月二十八日 朝五時、旅行中ノ柱崎君帰舎セラル、同ジク岩下君ハ夜八時頃帰舎セラレタルニヨリ食事ナシ 午後六時ヨリ新旧委員集リテ決算ヲナス ツヅイテ慰労会ニウツリタリシニ、恰モヨシ岩下君ノ旅行土産ノ旭豆出タル故、舎生一同集リテ茶話会ヲ開キ、興ニ乗ジテ九時半マデ遊ブ

富貴堂ヨリ左ノ書籍購入セリ、ニッチェ全集、人間的ナ餘リニ人間的ナ下巻、蘆花 思出ノ記

以上二冊ニテ、コレト同時ニ小野君ヨリ寄附金壹円アリタレバ、九十銭ニテ左ノ本ヲ買フ ロダンロマン「争ノ上ニアレ」

前副舎長佐藤君ヨリ手紙来ル

三月廿九日 本月分決算報告出ヅ

小西君ハ本日ヨリ火鉢ヲ止メラレタリ

今度作ルベキ雑誌ノ原稿用紙五帖購フ

三月卅日 楓林乃原稿募集乃掲示を出す。

全卅一日 富貴堂ヨリ書出シ来タルニ付支払フ

四月一日 小松君忍路ニ実習ノタメ旅行セラル、夕食ナシ

又四時三十七分ノ汽車ニテ白川君軽川ニ旅行セラル

八号室（小松保科両君）本日ヨリ火鉢ヲ廢セラレシ由

四月二日 五藤君（七号）、村岡君白川君（三号）共ニ、火鉢ヲ廢ス、北村君小河原君ストーブ廢メ、火鉢ニス。

四月三日 旅行中ノ白川君、午後十一時帰舎（食事ナシ）

四月四日 岩下君腹痛ニテ呻吟、医ヲ迎へタル 全快ノ速カナランコトヲ望ム。

四月五日 山司君今朝七時五十分ノ汽車ニテ忍路ニ旅行セラル、辨当持参、夜帰舎セラル。
久シク旅行中ナリシ内山君、午後帰舎（夕食アリ） 田中山司両君、火鉢ヲ撤セラル
晩食後春季部屋換組合ノ発表アリ、続イテ籤ニヨリ、部屋ノ番号ハ左ノ如ク定マル
一号室 内山君 五藤君 二号室 高橋君 岡部君
三号室 植崎君 白川君 四号室 足立君 保科君
五号室 小野君 田中君 六号室 小河原君
七号室 青木君 八号室 小松君 板垣君
九号室 北村君 村岡君 十号室 岩下君 山司君
十一号室 岩田君 齊藤君 十二号室 小西君 以上

四月六日 午後一時ヨリ昨日組合セノ通り部屋換ヲ行ヒ、各自大掃除ヲナス。

亀井君火鉢使用、岩田君ハ今日ヨ火鉢ヲ止メラレルコトニナル。北村君火鉢ヲ廢セラル、
岩下君を除ク外本日限り火鉢用フル者ナシ。

四月七日 朝乃汽車ニテ亀井君ハ友人ト共ニ忍路ニ旅行サル、七号室青木君ハ、寒キニ付
火鉢ヲ再ビ置クコトニシタリトノ事ナル故、火鉢使用者ハ岩下君ト二人ナリ、雑誌太陽
本日富貴堂ヨリ来ル。

四月十日 楓林ヲ書クベク、富貴堂ヨリ謄寫板鉄筆トヲ借り、同時ニ全原紙五十枚ヲ月末
拂ニテ買ッテ来タリ。

四月十日 丹治君ヨリ原稿ノ求メニ應ジテ和歌七首来ル。岩下君火鉢ヲ廢メラル、内山君
五藤君（一号室）岩田君齊藤君（十一号室）共ニ、二日前ヨリ火鉢ヲ用ヒオル由報告ア
リタリ。

四月十一日 晴ナレド寒シ、夜摂七度、爾後寒暖計ノ末度ハ室内ノモノトス。

昭憲皇太后三週年忌日ニ付キ、学校ニ於テモ、午前十時半ヨリ、式アリ、續イテ學長ノ
話アリ、然レドモ本委員ハ雑誌発行準備ノタメ缺席セリ。

本日夕食後、謄寫板ヲ富貴堂ニ返ス、先輩山崎芳雄氏ヨリ楓林ノ原稿ヲ二十日マデニ送
ル由、葉書ニテ報告セラレタリ、

尚釧路区役所在勤ノ鷹野氏午後八時頃我が舎ヲ訪問セラル、今朝ノ江別饅頭モ全氏ノ御
馳走ナリシトイフ。

四月十二日 「テニスコート」モヤ、完成シタルヲ以テ今日ヨリテニスヲ遊ブ人多クナリ
キ、今日ヨリハ室外運動ノ盛ニナル季節、コレヨリ舎生諸兄ノ大イニ身心ノ鍛鍊ヲナサ
レンコトヲ望ム。

四月十三日 畳修繕師三人来リテ修繕ヲナス。鉄筆、ヤスリヲ再ビ借り来ル。会計委員ヨ
リ文藝部費三円十五錢ヲ受ク

四月十五日 小松君実習地忍路ヨリ帰舎セラル正午ナリ、夜ハ無事帰舎祝ト土産トヲ兼ネ
テ御馳走セラル、二、三日舎ニオラレタル先輩鷹野氏今朝帰釧ニツカレタリ。

四月十七日 岩下君火鉢ヲ使用し初メラル。

四月十九日 齊藤くん爾後舎ノ食事ヲ廢シ、パンニ代ヘル由、蓋シ、君ノ脚氣ヲ恐レテノ

事ナルベシ

小河原君徴兵検査ヲ受ケラレシモ眼疾ノタメ国民兵トナラレタル故学校ニテモ、十七日ヨリ今日マデ体格検査アリ。

廿一日 亀井君夕張方面ニ旅行セラル、今日ノタイムスノ号外ニヨリ札幌区ヨリハ中西六三郎氏当選セラレタルヲ知ル、第二号外ニヨリテ見ルニ、中立候補ノ当選非常ニ多ク政友会等モ多キヲ以テ見レバ、政府ニ多少ノ選挙干渉アリタルモノノ如シ。

廿二日 岩下君山司君火鉢ヤメラル、晝食後運動部ヨリ庭球コート修繕ヲスベク達セラル。本委員ハ雑誌ノ件ニツキ先輩ヲ訪問シタルタメ加勢スルヲ得ザリキ。

今月ノ新聞ニ札幌郡部ヨリ東氏衆議院議員ニ當選セラレタル由見ユ。

斉藤君晩飯ヲ食フ由達セラル。

廿三日 亀井君旅行先ヨリ帰舎セラル（夕食ヨリ取ラル）

廿四日 晩食後委員会ヲ開キ今度ノ月次会ノ事ナド相談シタリ、後菓子等出デー時間餘ニシテ散会ス、尚委員ハ村岡岡部小野小河原ノ諸君ト定マル、斉藤君夕飯ヲ取ル旨報告。

廿六日 朝日讀賣タイムス、代価支拂シ、全同山司小河原君ヨリ新聞雑誌代ヲ受取ル。

廿七日 蠣崎氏ヨリ楓林ノ原稿来ル、斉藤君再ビ食事ヲ取ル旨申越サル。

廿八日 午後六時十五分ヨリ月次会開催、来賓トシテハ、五番館ノ安部氏来ラル、當日演説者ハ、

開会之辞	小野君
未定	斉藤君
楡下閑話	白川君
農業経営人	五藤君
運命と使命	小野君
差引勘定	青木君
植物と生存	亀井君
米國ニ於ケル經驗談	安部氏

當日ノ委員ハ小野小河原村岡岡部君ナリ。

廿九日 四月決算会ヲ北村君ノ室ニ開ク。午前十時ヨリ午後二時マデ費ス、終リテ北村君ヨリ菓子ノ饗アリ。

五月一日 富貴堂ニ謄寫板ヲ返却シ、雑誌代紙代ヲ支拂フ、又、維新堂ヨリ明暗ト大英遊記半球周遊トヲ借リテ来タリ、小松君板垣君火鉢ヤメル。

五月四日 端午ノ節句ヲ祝フベク、晩飯ノ代リニ、餅ガ出タリ。

五日 愈ニ運動会當日ガ来タ、協議ニ餘興ニ、大ナル希望ヲモツテ待ッテイタ運動会中ニ、最モ、眞剣ナトイフト、ソレハ、選手競争デアル、ソノ競争ノ時ニハ、誰モ、熱中シタ、應援歌ハ、天地ニ鳴リワタル様ニ、右カラモ左カラモ起ッタ、而シテ、ソノ結果ハ如何ニ、

第一回目ニ、豫科選手ハ、素適ナ勢デ走ッタ、然シ、コレハ長クハ続カナカッタ、二回

目ノ時ニハ、哀レムベシ中頃ニ餘喘ヲ保チ、水産選手ガ先導トナツタ、コノ時大勢ハ已決シタ、ソシテ、最後ノ月桂冠ハ水産ニ奪ハレ、実科ノ選手ハ第二着トナツタ、水産ノ得意ヤ如何ニ。記者ハ、餘興ノタメ午後ノ部ハ殆ンド見ルヲ得ザリシヲ遺憾トス。

七日 運動会ノタメ休ミトナル、大掃除ヲスル豫定ナリシモ、昨日ノ雨ノタメ出来ズ、十三日ニ延スコトトナレリ。

昨夜楓林第六号完成セシニ付廻送シタリ、

去月廿八日雑誌新聞購入者如左、

北海タイムス	十四銭	小西君
讀賣新聞	二十銭	岩田君
朝日新聞	二十三銭	白川君
中央公論	三十銭	亀井君
太陽	五十一銭	小野君

五藤君内山君火鉢廢メラル

五月九日 昨夜岡部君ニ電報来リタルヲ何事ナラント思ヒオリシ処今朝五時汽車ニテ帰郷スル旨掲示シテアリキ、高橋君ニ聞ケバ、岡部君ノ長兄ガ危篤トノ電報ナリシ由ナリ、君ノタメニ悲シム、零時五十分（午後）ノ汽車ニテ小野君ハ地質旅行ノ途ニ就カル。

十二日 舎ノ掃除ハ明日ノ日曜ニスルコトニシテアッタガ或四五名ノ人ガ今日スルコトニシタノデ、仕方ナシニ全部今日スルコトニシタ、今日モ明日モスルコトニスルト、ホコリノ立ツト、騒シキトニヨリ都合悪シトイフ。

十三日 円山ノ櫻三分通り開キタルコトトテ、満都ノ人士、杖ヲ円山ニ曳クモノ限リナク、コトニ今日ハ日曜ノコトナレバ老若男女打連レテ行クモノ織ガ如シ。

楓林第六號五冊先輩ニ送リタリ、送料一冊四銭、山口縣ノ佐藤君 台湾ノ安達君、秋田縣ノ丹治君、高知縣ノ多田君、釧路ノ鷹野君 以上五人ニ送リシナリ。

十四日 夕食後委員会ヲ開ク、協議事項ハ、

一、円山ノ花見ニハ水曜日（十五日）ノ朝四時出發ニテ行クコト

二、送別会ハ十九日（土曜）ニ開クコト

尚当日ノ委員ハ高橋君田中君齊藤君並ニ白川君ノ四人ナリ。

旅行中ノ小野君午後十時帰舎セラル。

十六日 四時半出發ニテ円山ノ花見ニ行ク、同行十四人ナリ、例ノ通り正門ヨリ昇リ、行ク／＼朝日ニ映ユル櫻花ヲ見乍ラ、神前ニ至リ参拝シテヨリハ境内ニアル高台ニ上リテ喫菓シタリ、コゝハ今上陛下ノ皇太子時代ニ御座アリテ正面ノ平原ヲ御覽ニナリシ所ナリトイフ、彼是四十分位遊ビテ帰ル、時ニ七時前五分ナリ。

今日限小松板垣両君ハ火鉢ヲ廢メラル。

十九日 兄君ノ御不幸ノタメ帰郷セラレシ岡部君ハ今日ノ午前八時帰舎セラレタリ、朝食ナシ。青木君ハ十八日限り火鉢ヲ廢セラレシ由

本日ヲシテ芽出度卒業セラレントスル諸兄ノタメニ送別会ヲ開催シ、舎長並ニ石沢氏

等ノ御來臨ヲ得テ衷心ヨリ三君ノ門出ヲ祝福シタリ。

送別会ノ晚餐ハ午後五時ヨリ開キ（献立ハ終リニアリ）六時半ヨリ送別会ニウツル、

開会之辞	高橋君
舎生総代送別之祝辞	小野君
舎生有志演説	北村君外三人
副舎長祝辞	
來賓ノ祝辞	
舎長訓辞	
閉会之辞	

以上終ル正ニ、十二時ナリ、コレヨリ茶菓ノ饗アリ、続キテ大イニ歌ヒ且笑ヒシテ、十二時ニ散会同時ニ、卒業生ノ萬才ト在舎生萬才トヲ各々三唱シテ散会ス、献立ヲ示スト、

一、口取り キントン、ナガシモノ、イセドーフ、夏ミカン

一、茶碗むし 鶏、クワイ、松タケ、豌豆、カマボコ

一、酢のもの カニ

尚菓子ト同時ニサイダー一本ツツ出シ、晚餐ノ部ハ卅錢位ニテ済マス。

廿日 午後八時半ニ植物園ニテ送別紀念撮影ヲナス、形ハ十二切ニシテ、價平均四十錢ナリ、今ヨリ十日間ノ内ニ出来ルトイフ、寫ルモノ廿五人ト、大ニテ廿四枚注文ス、宮部先生ヨリ二円ノ寄附アリタル旨掲示セラル。

今日ハ小樽高商ノ運動会ナリシタメ、小野君ハ十時頃ノ汽車ニテ見ニ行カル、明朝帰レル由ナリ。

廿一日 楚人冠ノ著「弱者ノ為メニ」ヲ購フ。

廿五日 五月分舎料決算会ヲ開ク。

廿六日 有志相集リテ北村君ノ送別茶話会ヲ開ク。

廿七日 午後九時頃ノ汽車ニテ北村君上京ノ途ニツカル、氏ハ六月一日ヨリ八月卅一日マデ、第三聯隊ニ入營セラレルナリ。

廿八日 夕食後新聞雑誌ノ競賣ヲナス

北海タイムス	十五錢	岩下君
讀賣	二十錢	板垣君
朝日	二十錢	亀井君
中央公論	二十一錢	小野君
太陽	十七錢	五藤君

六月一日 「テムペスト」英文書一冊亀井君寄贈セラル。

六月四日 五藤君左ノ書物三冊寄贈セラル、

一、野外植物之研究

一、ゼ、ユース、オフ、ライフ（英文）

一、彼岸過迄

維新堂ニ、「明暗」「大英遊記半球周遊」ノ代價三円六十錢支拂フ。

六月七日 過日来肋膜炎ノタメ學校ヲ欠席シテ養生中ナリシ齊藤君ハ今日ノ午後九時ノ汽車ニテ帰郷セラレタリ、舎生ノ大部分ハ見送リニ行キタリ、然シ、病ノ重クナリシタメ帰リシニハ非ズ。君ノ話ス所ニヨレバ、故郷ニテ、ヒドク心配セラレ帰ラレルナレバ、是帰レトイフニヨリ歸ルニ非ズトイフコトナレバ、心配スルニモ当ルマイト思フ、君ガ大イニ養生ヲ積マレテ心身ニ大元氣ヲモチテ、来ル九月ノ試験ニ應ゼラレンコトヲ冀フ。去月廿日ニ写リシ紀念撮影ハ漸ク今日出来タリ、評ニヨレバ、例年ヨリ甚ダオトルコト、成程見レバ半分ノ人ノ顔ハ眞ナラズ、悲觀スル人モ多カリキ、豫科実科ノ試験時間割出ズ、水産ハ明日ヨリ試験アリトイフ、他ハ十四日ヨリ廿三日迄ナリ。

六月十四日 豫科実科ノ試験始マル

六月十五日 水産科試験終了

札幌神社祭日ノタメ豆飯出ヅ、田中君脚氣ノ氣アリトテ昨日ヨリ麦飯ヲ食セラル

全十六日 夕食後委員会ヲ開キ離別会ノコトヲ定ム

全廿日 当寄宿舎ノ創立ニ際シ副舎長トシテ盡力セラレタル井街頭氏来舎セラレ種々当時ノ話ナドセラレ、次ニ氏ガ今度、フィリピンニ行カレルニ付キ、彼地ヲ踏破セラレタル実験談又産業視察談ヲセラレタリ、コトニ、マニラ麻、椰子等ノ有望ナルコトヲ述ベラレタリ。

廿三日 舎生一同試験ハ本日限リト終ヘタリ。

廿四日 月次会ニ兼テ離別会ヲ催シ夕食ニハ、盛スシノ馳走アリ、自家製ヨーカンモ取物ニシテ加フ、又、今後ノ茶菓ニハ時節柄アイスクリームノ馳走アリ、談笑歌声ノ内ニ歡ヲ盡シテ十二時ニ閉会ス。

本会ニ先生ト蠣崎氏トノ臨席ヲ得且有益ナル訓話ヲ給ハリシコトヲ感謝ス。

尚当日ノ委員ハ、植崎、足立、内山、山司ノ四氏ニテ、謹ンデソノ御苦勞ヲ謝ス。

廿五日 朝五時半ノ急行ニテ、小野、村岡、田中、三君帰省、察スルニ、田中、村岡両君ハ、昨夜ハ眠ラザリシナラン、今朝モ、早クヨリ声ノスルヤウナルニヨリ、見送リニ遅レルカト思ヒ、顔モソコノニ洗ヒテ、時計ヲ見シ所四時十分ナリ、発車マデハ正一時間半モアルニ、両君ハ已ニ停車場ニ行カントシテオルヲ見テモ如何ニ早ク帰りタカリンカヲ察セラル。

サモアレベアレ、人トシテ、悲慈深キ父母ノ膝下ニ帰省スルニ、嬉シカラザルモノアラシ、マシテヤ光荣アル専門科程ノ一年間ヲ送ラレタル両氏ニ於テオヤ。

吾人ハ人情ノ極至ヲ親子間ニ認ム、吾人ハ青年寄宿ノ兄弟中ニ円満愉悅ノ一年間ヲ送りシトハイヘ、友情ハ終ニ、骨肉間ノ愛ニ優ルヲ得ズ、コノ点ヨリ思フニ、休暇ニ帰省スルハ人情ノ暖カミヲ受クル点ニ於テ大イニ効アリ、居ヲ遷シテ人心ヲ新ニシ、英氣ヲ養フニ効アルヤ言ハズシテ明カナリ、願ハクハ三君ヨ、帰省シテ旧友トノ情ヲ厚クシ父母ノ愛ニ沐浴シテハ他人ト交ハリテ薄情ナラザランコトヲ期シ、ソノ精神ニ於テ肉体ニ於

テ、健全ニ且元氣ノ充滿ヲ致シテ、来学年ノ科程ニ、ノボラレヨ。

廿六日 朝七時十分ノ汽車ニテ岡部君千島ニ行カル。

廿七日 安達君ハ午前五時四十分ノ汽車ニテ帰省、青木君ハ七時十分ノ汽車ニテ某事務所ニ行カル。

廿八日 小松君実習ニ行カル、静岡ニ

廿九日 内山君実習ニ行カル、函館ニ

卅日 岩下君実習ニ行カル

保科君実習ニ行カル 函館

七月一日 岩田君帰省 植崎君実習ニ行カル

小西君ヨリ寄贈アリ

一、金剛草 二、世界ノ過去現在及未来

七月二日 夜十二時頃ノ汽車ニテ亀井君天塩ニ実習ニ行カレタリ

四日 青木君帰舎セラレタリ、中食ヨリ、小西君夜行ニテ帰省

七日 朝小河原君帰省、食事無シ

八日 青木君帰省 // //

十日 植崎君帰舎 夜九時頃

十二日 植崎君昆布ノ実習地ニ行カル

十五日 植崎君昨日再ビ帰舎セラレテ今日又出発

十八日 夜十一時半ノ汽車ニテ小西君帰舎

二十日 午前五時半ノ汽車ニテ山司君帰郷

全七時ノ汽車ニテ斉藤君帰舎、蓋シ実習ノ為学校ヨリヨビカヘサレシト

二十一日 植崎君帰舎、夕食ナシ、翌朝カヘル、

二十九日 午後七時亀井君天塩実習ヨリ帰舎

三十一日 七月分決算をなす、但し二十八日マデ。

八月五日 亀井以下四人銭函海水浴出張、仰せ付けらる。

六日 午後四時九分帰郷（十勝国帯廣へ）高橋テル雄君

八月八日 函書ノ土曜干ヲナス。

十日 午後九時ノ汽車ニテ板垣君帰省

十一日 五藤君斉藤君ハ昨日実習ヲ終へ、今朝五時四十分ノ列車ニテ帰省、白川君モ亦同様ニ此時旅行ニ出カケラル。

十二日 今日ヨリ舎ニ亀井君一人デ測量ニ出カケラル。

十五日 朝突然植崎君（小沢付近下刈出面監督）帰舎セラル

本日保線ノ方ヘノ出張トノ事ナリ。

十七日 早朝植崎君帰舎再ビ舎ニハ只一人ノ舎生トナル、静カナルコト林ノ如シ。

二十三日 突然鈴木君東京ヨリ帰り婆ヤノ所ニ滞在セラル、蓋シ当方ニテ休取セラル見込ナラン

二十四日 小西君札幌へ出張ノ為寄宿ニ来ラル、珍ラシトモ珍ラシ、同君及び鈴木君等集リ愉快ニ夕飯ヲ共ニス、夜半に至リテ話ツキズ小西君狩太ニ帰任。

二十九日 朝八時ノ汽車ニテ小杉足立二君帰舎、寄宿舎頓ニ賑フ、朝食アリ。

三十日 札幌警察署ヨリ、今度風儀衛生上ヨリノ害ヲ認メテ、ハーモニカ、道路販賣ヲ禁ゼシトノ事、是ハ新紙上ニテモ唱フル如ク比較的貧民者階ノ唯一ノ好内職ナリ、且ツ又札幌街路ニ一ツノ風致ヲ添フル点ナリシ事誰シモノ記憶ニ存スルナルベシ、今日以後急ニ生活ノ困難ニ人知レズ涙ヲ呑ム人々モ少カラザルベシトテ同情スル舎生モアリ。

三十一日 大坂ノ人ニテ豫科入学ナラ入レテ呉トテ直知人アリ、照会来ル。

此頃大工来リテ修繕中ナリ、今度湯殿ノ一部ヲ換ヘタリ、門柱モ支木ヲ造リテ直ス。

九月一日 五藤君、岡部君帰舎セラル。

九月二日 新学期モ此月ヨリ始マルコトナル、大工尚来リ硝子戸ヲ直ス 柁屋来リテ屋根ヲ見ル。

九月五日 水産学科老年渡辺文雄君新ニ入舎サル 君ハ九州福岡ノ産。

帰郷諸君ヨリノ通知続々来リ、影ハ見ヘネド何トナク賑ヤカシ。

午後十二時頃、内山君帰舎サル。

六日 小野君植崎白川ノ三君帰舎サル。

八日 大小島君、村井君、希代君入舎

九日 黒岩君入舎 岩下君帰舎

十日 岡田君入舎 田中君北村君帰舎

十一日 保科君帰舎 板垣君帰舎 (夜十二時) 大隈君入舎

十二日 午後委員会ヲ開キ、月次会歓迎会ノ相談ヲナス

十三日 村岡君帰舎 齊藤君帰舎

十五日 歓迎会ヲ兼ネテ月次会ヲ開ク、委員ハ足立、保科、五藤、板垣ノ四君、六時半開会、三四ノ有志諸兄ノ歓迎辞アリ終リテ新入生ハ例ニヨリ答辞並ニ所感アリ、ソレヨリ石沢氏ノ學生訓トモイフベキ演説アリ、最後ニ舎長モ訓辞ヲ述ベラレテ茶菓ニ入ル、続イテ、委員ノ改撰アリ、開票ノ結果ハ如左

会計部 安立君 食事部 小松君

文藝部 保科君 衛生部 田中君

運動部 植崎君

コノ時、会計ニツキ小野君ヨリ非難的質問アリ、曰ク、休暇中ニ學僕ヲ置キタル前例ナキニ、今回、學僕ヲ帰サザル上ニ、學僕ノ食費ヲ帰省舎生ニマデ割当テタルハ不穩当ニアラズヤ、カカル特例ノモノハ宜シク舎費ヨリ支出スベキモノト信ズト、コレニ付キ種々論議アリ、結局今回ハ、是認スルコトトシテ、明年ヨリハ八月中學僕ヲ置カザルコトニ議決セリ。

九月十六日 此日午前九時半ヨリ學校グラウンドニ於イテ尚志社ト野球ノ試合ヲナス。

二十二対八ニテ大敗セリ、齊藤君追試験準備ノ為移轉外泊スル事トナリ午前中移轉ス

此日全員白川君ヨリ引渡アリタリ。

小松君食事係ヲ岩下君ニ譲リタル由揭示アリタリ、午後二時ヨリ學校グラウンドニ本學
對鉄道俱樂部ノ野球試合アリタリ。

十對ズエロニテ本學ノ大勝ニキス

九月十八日 此ノ頃新氣分ナ學期始メ舎生ハ元氣潑瀾タル實ニ愛スベシダ。

此ノ日明十九日夕食后新聞雜誌ノ競賣ヲナス旨揭示ス。

九月十九日 本日夕食後新聞雜誌ノ競賣ヲナス、

北海タイムス 拾四錢 岩下君

東京朝日 拾五錢 小松君

中央公論 四拾六錢 大小島君

七、八月分新聞雜誌其ノ都度居合セタル諸君ノミニテ処置シ文藝部ト關係ヲ絶ツコトト
セリ

六月迄取りタル讀賣新聞ノカワリニ萬朝ヲ取ル事ニセリ、然レドモ舎生諸君ノ一般ノ意
見ニヨリ中途変更スルコトニ決ス。

雜誌ハ太陽及ビ中央公論ヲ取ル事ニス、外ニ舎生一般ノ是ト認ムルモノハ毎月取ルコト
トス。

此ノ日午後仲小路酪農商務大臣ノ来札アリ、此夜運動石狩川行キ募集ノ揭示アリ、家鴨
ノ寄附ヲ五日迄ニナス様揭示アリ

九月廿日 来月ヨリ中央公論及ビ太陽ヲ取ル事ニ富貴堂へ注文セリ、萬朝報ハ来月カラ取
ルコトニ新聞店へ注文セリ。

九月廿二日 放課後舎生拾五名ハ此ノ二日間ノ休ミヲ利用シ石狩川ニ清遊ヲ試ミントシテ
出立セリ、諸君ノ意氣ヤ實に慶スベキナリ、一泊明日夕刻帰札ノ予定ナリト。

舎ノ留守居番ハ小野君内山君大隈君五藤君保科五名ナリ。

大小島君夕食後五時半頃小樽ニ行カル、明後（廿四日）御帰札ノ予定ナリト。

足立君會計委員ヲ引継ギタル由揭示アリタリ

九月二十三日 此ノ日午后貳時ヨリ本學對大洋俱樂部トノ野球試合本學グラウンドニ開催
サレタリ、遺恨三ヶ月三尺無双ノ劔持チ清水丘原頭ニ■日ノ屈辱ヲ雪ガンガ為メ練習セ
ル様實ニ彼等必勝ヲ期セシナラン、而シテ彼等ガ意氣ヤ天ヲツカンノミ、彼等ガ練習振
リハ觀客ヲシテ汗ヲ握ラシメタリ、ヤガテ秋風カホル二時長官ノ試球式ノモトニ高松判
審ノ「レエデーフレーボール」ハ高く、エルムノ上ニ響キタリ、
カクテ五時半十二對五ニテ本學ノ大勝利ニ歸シ「ゲームスエト」ノ声ト共ニ、三三五五
觀客去リテ農大軍ノ大元氣ニ引キ替ヘ彼等ガ意氣消沈、悲哀ノ風グラウンドヲ襲ヘリ、
嗚呼彼等ガ胸中果シテ幾許ゾ

昨日石狩川へ清遊ノ為遠足セシ舎生一行ハ六時半頃先頭、足立君、岩下君、田中君ヲ始
メトシ無事帰舎セリ、何レモ元氣ヨリ、今迄淋寞タル舎モ為メニー時ニ賑クナレリ

九月廿四日 秋氣皇靈祭ニテ學校ハ休ミ

十時ヨリ大洋俱樂部對鉄道俱樂部野球試合アリ、舎生悉ク見ニ行キタリ、二十三對八ニテ大洋ノ大勝利ニ帰ス、大小島君セラル夕食アリ

九月廿五日 五藤君朝七時ノ汽車ニテ旅行ニ行カレタリ、朝食アリ

小野君地質學研究ノタメ、晝食後出立セリ。此ノ日各室入口ナル、マント掛ノ釘ヲ打チ替ヘタリ

九月廿六日 此ノ日新聞代九月分ヲ支拂フ（タイムス、朝日）

九月廿七日 小野君帰舎、三時十分ナリ小野君ノ御土産沢山イタダケリ

九月廿八日 齊藤君復舎セラル夕食アリ、新聞屋来リ、来月ヨリ朝日、萬朝ヲ取ル事ヲ直接交渉セリ、十月ヨリ新聞代高クナル筈ナリ。

九月廿九日 此月運動部委員、小松君、足立君ノ熱心ナル諸君ノ世話ニヨリ兎狩用、網ヲ他所ヨリ借リル事ニナリ、愈々明日輕川原野ニ於テ兎狩ノ催ヲナスベク、揭示アリ、為ニ舎生ノ意気益々高マリ其ノ元氣ヤ實ニ愛スベキナリ、廿日午前壱時出發トノ事ニテ、勝手ハ握飯ノ用意ノ為ニ少カラザル混雜ヲ極メリ、然レモ〔ドモ〕朝早キタメ皆早々就床シ八時頃ハ既ニ静マリテ淋寞ヲ感ゼリ。

九月卅日 觀月ヲ兼ネ輕川原野ニ兎狩ヲ催シ秋ノ一日ヲ樂シク送ラントセシ吾々舎生十九人外ニ近邊ノ中學生五名即チ貳拾四名ノ一行ハ午前五時出發セリ、途中寮歌、俗謡ナドトリドリ面白ク、興又興、足ノ疲レルモ覺エズ鉄道軌道ニ添ッテ、三時輕川停車場ニ着セリ、時ニ未明、暫時休憩ノ後、野原ニ出デ相當ノ準備ヲナセリ、時移リテ五六回勢子ノ声、騒々シク、然レドモ、一頭モ得ズ、為ニ意気頓ニ消沈シ帰舎セントノ声、所々ニ漏レドモ尚一行ヲ鼓舞シ晝食後二三回ヲ試ミタレドモ、獲物一匹ダニナク已ムヲ得ズ壱時半帰途ニツク、貳時二十三分ノ汽車ニテ帰舎セリ

亀井君旅行中ノトコロ今夜八時頃帰舎セラレタリ

十月一日 五藤君帰舎

九月分決算ヲ行フ、終リテ亀井君ノ部屋ニテ、旅行話ヤラ御土産ヤラ、愉快中ニ散去セリ。

十月二日 保科君急ニ退舎セラレテ尚志舎ニ入ル

十月四日 夕食後新聞ノ競賣ヲ行フ

朝日 二十一錢 北村君

萬 二十五錢 黒岩君

北海タイムス 今後ナガクヒキ續イテ内山君ガ買フコトト多数決ニヨリテ定ム、賣價拾五錢。

北海タイムス賣却スルニ当リテ、ヒキ續キ十五錢ニテ内山君ニ渡スハ不可ナリトスル者アリタレドモ在席者ノ半ニタラズ、故ニ多数決ヲ以テ右之条件ニテ売却スルコトトナレリ、ソノ後文藝部委員ヲ撰擧ス、板垣君ト定ム、右委員代理小松君ヲトラル

十月五日 朝小松君ヨリ板垣君ヘ文藝部大財産全額渡サル。

日誌・本部所有書名簿、会計簿及現金壹円貳拾戦五厘、
晝飯時ニ於前日競賣ノ不平ヲイフ者数人アリ、北海タイムス賣却方法ノ不可等、故ニ諸
兄ノ意見ニヨリ今晚競賣ヲヤリナホシスルコトニ定ム。夕食後新聞競賣ス、

(昨日ノ競賣ハ全部トリケシ)

朝日 十八錢 白川君
萬 二十一錢 黒岩君
北海タイムス 十六錢 岩下君

部屋換 組合セ発表次ノ如シ

一号室 植崎君 岡部君
二号室 足立君 村井君
三号室 小野君 岡田君
四号室 大小島君 板垣君
五号室 田中君 小松君
六号室 北村君 黒岩君
七号室 岩下君 齊藤君
八号室 白川君 内山君
九号室 村岡君
十号室 大隈君 渡邊君
十一号室 希代君 五藤君
十二号室 高橋君

十月六日 土曜日大掃除アリ、晴天 晩、豫科一年伊達宗雄君入舎セラル、九号室

十月七日 午前九時頃ヨリ林学科三年ト庭球ノ試合アリ。

林 舎
足立君 村岡君
遠藤君 田中君
川崎君 岡部君
岩下君 小野君
青木君 高橋君
高田君 大隈君
林実勝 以上三本勝負

紅白試合 (三本勝負)

紅 白
希代君 大小島君
村井君 渡邊君
黒岩君 五藤君
亀井君 板垣君

北村君	田中君
亀井君	白川君
小野君	岩下君
村岡君	岡田君
高橋君	岡部君
大隈君	上村君

三本勝負

- | | |
|-------|------|
| 1、亀井君 | 白川君 |
| 希代君 | 岡田君 |
| 2、村岡君 | 田中君 |
| 北村君 | 黒岩君 |
| 3、大隈君 | 岩下君 |
| 五藤君 | 板垣君 |
| 4、小野君 | 岡部君 |
| 村井君 | 五藤君 |
| 5、植崎君 | 高橋君 |
| 渡辺君 | 大小島君 |
| 6、伊達君 | 岩下君 |
| 村岡君 | 希代君 |

午前ノミニテ終ル 晴天

晝食後賄夫後継者ニツキ相談ス

札幌病院ノ付添へ人ニテ熊本アタリノ士族夫死シテ二人ノ娘ヲ有スル婦人ヲタノムコト、スルソノ婦人ガ十三四歳ノ娘一人ヲツレテキタイトイフ望ニヨリ亀井君ガ娘ニアツテ舎へ置イテモヨイト思フタトキハ置クコトヲ許スコト、定ム。

コノ席ノ歛席者ハ小松君足立君

現賄婦鈴木氏賄婦ヲ辞セラルハニヨリ相当ノ禮ヲスベキニツキテ相談ス拾五円ノ禮ト定ム

新入生ハ三十銭、他ハ六十銭、不足ハ舎ヨリ。

十月八日 舎庭ノ牧草ヲローンモーアニテ刈ル。

十月十一日 夕食後委員会アリ、来る十一月三日の記念式及月次会等に関して相談す。

十月十二日 第十九回創立記念日記念会委員扣〔控〕

一、食事係（主任）岩下君、北村君、小野君、小松君（兼）、齊藤君、黒岩君、村井君、希代君

二、装飾係（主任）田中君、五藤君、内山君、白川君、渡辺君、伊達君

三、接待係（主任）板垣君、足立君（兼）

四、会計係（主任）足立君

五、余興係（主任）植崎君（準備係）高橋君、岡部君、小松君、村岡君、岡田君、大小島君、大隈君（兼任）北村君、小野君、五藤君、岩下君、内山君、足立君、板垣君、黒岩君、白川君、齊藤君、田中君、村井君、伊達君、渡辺君、希代君

六、庶務 亀井君 以上

十月十四日 日曜日 尚志社ト野球試合当舎勝

十月廿日 土曜 自由研究日 午前十時頃定山谿へ出発、ソノ日暮方ニ雨降ル、十時頃寝ニツク、夜寒シ。

十月廿一日 朝雪降ル、ワレ等ニ初雪ナリ、

一部午前十時半帰途ニツク、五時頃帰舎、千山ノ紅葉一筋ノ流。

他部午後二時頃帰途ニツク、七時頃帰舎、宿泊料として各自より金三十銭徴集す。

当日持参品 米 タマネキ イモ ミソ サトウ ニク

十月二十二日 大隈君外泊セラル

舎友諸兄に、はがきにて来るべき記念日を通知し終ル、總数五十四、五なり。

ハガキを書くにあたって文藝部員一人で書くといふことは決して最もよい方法ではあるまい、このやうな機会に出食はしとたときは全員全部各人に二枚位づつと書くべく要求して舎ではこんな仕事もしてゐるといふことを知らしむることが必要だ。親切顔して自分一人でやってしまうことは考へものだ、その仕事が全般に通ぜぬから。

十月二十八日 決算を行ふ

招待状（記念日）を書く諸氏の助けを得て、小西兄舎へ御出で、北海タイムス、萬朝、朝日、新聞代拂ふ。

十一月一日 小野君火鉢ヲ始ム

十一月二日 足立君火鉢ヲ始ム

十一月三日 土曜日当舎創立第十九回記念日記念祝賀会ヲ挙グ。

招待状ニハ午後四時半マデニ御来駕ヲ乞フ。

来客 宮部先生、石澤氏、同令夫人、蠣崎氏、中島君

開会 五時半（晚餐）

本開 七時過ぎ

閉会 九時頃

餘興終了 一時半

十一月四日 小松君火鉢、白川君火鉢、渡辺君火鉢

十一月五日 村岡君火鉢、晩雪降る

十一月六日 岡部君火鉢、齊藤君

十一月四日 新聞雑誌の競賣ヲ行フ

北海タイムス 十五銭 岩下君

萬報 十五銭 板垣君

朝日 二十銭 岩下君
中央公論 二十銭 黒岩君
太陽 二十三銭 大小島君

十一月七日 岩下君火鉢、賄婦鈴木氏告別の晚餐を開く。

十一月十八日 日曜曇天、大根漬ヶ舎一同奮闘努力する。及舎庭掃除

十一月二十二日 晩より新しき賄婦来る。

十一月二十九日 昨夜より雪五寸位つもる。夜決算を行ふ

十一月卅日 夕食後新聞雑誌の競賣を行ふ

北海タイムス 岩下君 二十銭
朝日 北村君 二十五銭
讀賣 村岡君 十六銭
中央公論 五藤君 三十二銭
太陽 内山君 二十五銭

萬朝をやめて来月より讀賣をとることと定む

又来月より雑誌雄辨をとることと定む

十二月二日 水産科一年豊田君入舎せらる

十二月十二日 夕食後委員会あり、月次会を廿日と定む 委員（今月次会）左の如し、本科一同

十二月十三日 今日より学期試験始まる

今日宮部先生には御子息憲次君満州に於て狂犬病の為急死せられたため今晚九時の汽車にて満州へゆかせらる。舎生御見送す
淡き雪静かに地面白し。

十二月十八日 零下十三度ナリ

十二月二十日 試験終了す

月次会を開く。委員は本科生諸兄、有志及五分間演説あり 委員改選す、次の如し。

文藝部 小野君 衛生部 白川君
運動部 村井君 会計部 内山君
食事部 岡部君

午後十時半餘興終る

十二月廿一日 午前五時伊達君東京へ行かる。

十二時二十分大小島君大阪に帰省せらる、午後四時小野君帰省せらる。

十二月廿二日 午前八時岩下君は親戚へ、内山君は実習に忍路へ行かふ。午後九時亀井君帰省せらる

十二月廿三日 此頃諸兄ピンポンの練習に獐猛なり、午前十時より午後八時に至り一分の休息を持たずと。

十二月廿七日 餅搗き、八時より十一時に終る。

餅つきを辞せる弱者一人もなし、糯米五斗 晝食五升餅。

十二月廿八日 決算を行ふ 普通拾一円七十九銭、月蝕なり

十二月廿一日 凶書整理の際紛失せる書名次の如し

スマイル 勤儉論 黒岩周六 天人論

別所梅之助 武蔵野の一角に立ちて

内村鑑三 偉人と讀書

(年末贈上及び十一月中の御礼として婆に金貳円を各自より集めて贈る)

十二月卅一日 午後十時より忘年会を開く。

蜜柑一箱、ソバ三杯、空水陸遊戯中十二時至る、一同耳を澄ます、大正六年を送る鐘聲
ゴーン、一同ウワァー！静寂・又しばらくして奥の方より、ゴーン、一同ウワァー！静
寂……………ゴーン、微かなり、

大正六年萬歳三唱、寄宿舎萬歳三唱、終り。

此の日新聞の競賣を行ふ

朝日新聞 三拾二銭 岡田君

讀賣新聞 二拾三銭 岩下君

北海タイムス 二拾八銭 内山君